

「多職種連携のための臨床検査技師育成講習会」

岐阜赤十字病院 武藤 次郎

本講習会は日臨技及び都道府県技師会共同主催で平成26年度から平成28年度に実施した「検査説明ができる臨床検査技師育成事業」の継承事業です。

開催期間は3年間の継続事業として、3年間で日臨技会員の約1割の受講者を目標に掲げられています。

平成27年度の臨床検査技師等に関する法律の改正を踏まえ臨床検査技師がチーム医療を実施するうえで協働する他職種の業務を理解することが大切となり、これにより臨床検査技師のチーム医療などへの参画及び質的向上を図ることを目的に企画されました。

この度、岐阜県では平成30年9月29、30日、平成31年1月19日に岐阜赤十字病院にて行われ28名の会員が参加しました。

内容は全国共通カリキュラムにのっとり認定認知症領域検査技師、薬剤師、管理栄養士、臨床工学士、看護師に依頼し、各分野の主な業務内容、特に病棟にて行われている業務について、そして患者やその家族とのコミュニケーションのとり方を実技も交え講演をしていただきました。

どの職種の講演も素晴らしく非常に満足度の高い講習会となりました。同じ施設の仲間でありながら実際のところその業務は知らないことばかりであり、そして臨床検査技師が他職種に比べ病棟での貢献がなされていないと痛感させられました。患者のいる場所で患者をしっかり受け止める そのことなくして検査技師は生き残れないということを改めて学んだように思います。

今後、認知症患者を含む様々な患者への対応力の向上、患者やその家族 他の医療関係者とのコミュニケーションの向上など臨床検査の多様性を磨くことが必要となっていきます。そのためにも多くの方に本講習会を受講していただきたいと思います。



平成 30 年度 都道府県技師会リーダー育成研修会に参加して…

大垣市民病院 医療技術部診療検査科 神谷嘉彦



平成 30 年度都道府県技師会リーダー育成研修会に参加させていただきました。私は血管造影室に出向し他職種と接する機会が多いため、今回の研修会に大変興味を持ち参加することができました。

日本臨床衛生検査技師会 横地常広副会長の「中堅技師に求めるリーダーの資質～若手技師人材育成を中心に～」を拝聴し、「リーダー」「コミュニケーション」「臨床検査技師の今後」の大きく 3 つの事柄について教えていただきました。

リーダーには「明確なビジョンを持つこと」「戦略・戦術を立案すること」「優先課題から実践すること」「成果を組織力として讃えること」「達成した時から、次の戦略を考案すること」が必要であることを学びました。また、加えて重要なことは、一方的にリーダーから発信するのではなく相手の話を正確に受信する姿勢を示し尊重するコミュニケーション能力が求められる事です。自分自身の価値観のみでの判断でなく相手の価値観にもある一定の共感を示し、賞賛する際は組織的に、指摘する際は個別に行う配慮が必要であることを知りました。また、相手に伝達する中で言葉の伝達能力は 10%未満で、表情の伝達能力は 60%ほどあることを留意して、伝達内容も教育初期段階では指示・命令・指導であるティーチングを用い、教育習熟段階においては質問・提案・協働であるコーチングに徐々に移行していく工夫も必要であることを学びました。現在における我々臨床検査技師の課題は各施設で異なり限定的な事項と私は思っていたが、中長期的に考察すると AI 等の進歩などの社会情勢の変化で、臨床検査技師そのものの存在意義まで脅かされていることを認識しました。そして臨床検査技師が各々の施設で必要とされるためにどのような取り組みを行っていかなければならないのか考えさせられました。

富士ゼロックス総合教育研究所 坂本雅明コンサルティング部長の「自己変革～自己認識と行動変容～」を拝聴した後グループワークを行いました。講話においては、リーダーとして上記事柄に留意し組織を動かすことは一見、リーダーを普遍的な存在として周りのスタッフが変化していく様を想像していました。しかし、リーダーとなる者は自己変革が必須であり、それは組織の方向性が環境変化によって変化が起るからで、そしてそれに伴う課題も変化するためであることを知りました。また、環境変化を想定したなかで、その因子が我々組織にどのようなプラスのまたはマイナスの影響を与えるのか考察する必要があります。それらを十分に抑えた上で自分自身がどのような振る舞いを組織で行うのか変革課題として設定し実行することが求められることを認識しました。講話で学んだ事項をグループワークにて実践しました。私のグループは主に生理機能検査を行っている技師が集

まり、現在検査室で起こっている環境変化を問題共有し、加えて横地常広副会長の講和において学んだ、病院内・地域医療・社会情勢の規模で起こりうる環境変化も列挙しました。そして、これまで拝聴した坂本雅明コンサルティング部長の講話をもとにどのような影響があるか、どのように行動を起こすべきかを議論しました。私のグループでは、臨床検査技師の技術維持・活動範囲の拡大が主に取り上げられ、我々臨床検査技師が各施設のみで必要とされるだけでなく、地域の方々からより認知され必要とされなければならないということを考えました。それらを取り組む上で業務の効率化などを図り、新たな人員・業務時間の確保を努めることが必要であることを共有しました。

今回、平成30年度都道府県技師会リーダー育成研修会をとおして、中堅技師としてのリーダーシップ、またそのノウハウまで教えていただき、更に現在我々はどのような目標を掲げ日頃の業務に取り組むべきか考える機会をいただきました。そして、横地常広副会長の講和において「我々臨床検査技師は一医療人であり、患者様に何ができるか…何をすべきかを考えなければならない」という言葉に心打たれ、今後の臨床検査技師として、また一医療人として業務に勤しんでいきたいと思えます。



(一社) 岐阜県臨床検査技師会



第57回岐阜県医学検査学会

【日時】 平成31年3月31日(日)

【会場】 星雲会館 2階 天慶の間

教育講演

『僻地の医療と整形外科診療』

地方独立行政法人下呂温泉病院

院長 鈴木 康先生

ランチオンセミナー

〈1〉 『最近増加傾向にある梅毒を含む性感染症の現状』

富士レビオ株式会社 中部支店

林 竜次先生

〈2〉 『マルチプレックス PCR 法の微生物検査における有用性について』

ベックマンコールター株式会社 マイクロバイオロジー統括部 堂浦 照也先生

市民公開講座

『音楽と健康』

講師 赤梅 尚子先生



第 58 回中部圏医学検査学会（岐阜）

進捗について

実行委員会

第 58 回中部圏医学検査学会の開催に向けて、実行委員一同鋭意準備中です。進捗状況としては、特別講演は清島真理子先生（岐阜大学教授）に御快諾頂き、医療現場における女性参画、ワークバランスなどの観点で御講演いただくことになりました。また市民公開講演につきましては、柴橋正直先生（岐阜市長）、福田克則先生（福田刃物工業社長）に御快諾頂いております。支部シンポジウム企画、部門別企画、スキルアップセミナー等も学術部にご協力いただきながら進めております。

4月上旬には学会案内の冊子をそれぞれの施設に配布予定です。会員の皆様、「演題」の御準備をよろしくお願い致します！！

第 6 回実行委員会は 3 月末に予定しております。

第 58 回中部圏支部医学検査学会

<http://58chubu-kensa.net/>



平成が始まるとワードプロセッサを買った、その数年後パソコンを購入しました。パソコンの容量はたったの 16MB。画面はモノクロ、インターネットの接続は可能でしたが「ピー、ゴロゴロー、ピュー」と電話回線に繋ぐ音だけが鳴り、その長さに飽きて止めることもしばしば。30 年経ち平成が終わろうとしている今、そんな頃を振り返ると笑えてきますね。皆さんも一度、この 30 年振り返ってみては・・・懐かしいこと思い出すかもしれませんよ。

新たな時代の到来は期待であり不安でもあります、まずは 4 月 1 日に発表される新元号、何になるのでしょうか。イニシャルは A? E? それとも K? いずれにせよ、希望を持って新たな臨床検査技師の世界を創っていききたいものです。（会長 浅野 敦）

発行所(一社)岐阜県臨床検査技師会

〒500-8384 岐阜市藪田南3 丁目5 番地 10 コスタ岐阜県庁前 603 号
TEL 058-275-5596 FAX 058-213-0220

発行責任者 浅野 敦

編集者 高崎 昭彦 松浦 康博 種村 久子
E-mail giringi-office@giringi.jp